



地域における防災

7月に校外生活委員会が中心となり、防災をテーマとした地区懇談会が行われました。大阪北部地震や西日本豪雨の直後だったこともあり、参加した保護者からは活発な意見交換がなされました。

静岡大防災総合センターの牛山教授の調査では、過去、上砂災害による死者の9割は自治体のハザードマップなどで危険性が示されていた場所で起きているそうです。普段から自

家庭・学校・地域の防災

身を守るためにやっておこう。知っておくべき防災の知識

「正常性バイアス」という言葉を聞いたことがありますか？

「正常性バイアス」とは、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価する人間の『特性』を意味します。自然災害や事故など自分にとって何らかの被害が予想される状況にあっても、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」と過小評価してしまい、結果逃げ遅れの原因となります。(ウィキペディアより)

今年に入ってからだけでも、6月には大阪北部地震、7月には西日本豪雨9月には台風号と北海道で初めてとなる震度7を超える地震が発生しました。例年になく異常気象が観測されるようになった今、これまでの常識で災害を過小評価しないためにも、私たちは一層の警戒と対策を進めていかなければなりません。

そこで、今回の特集では、PTAという立場から家庭・学校・地域における防災について考えたいと思います。

家庭における防災

下着・衣類品、そしてスリッパなどの足を守るものも用意しておきましょう。また、停電などに備え、懐中電灯・携帯ラジオなどの備えも必要です。携帯電話の充電器もお忘れなく。

左に災害時持出品の例を挙げてみましたのでチェックしてみてください。大きな災害が起こった時に一番大切なのは、冷静な行動。それには、普段からの心構えや備えが肝心です。家具の転倒防止・備蓄品の補充・家族との避難経路や連絡方法の再確認など日頃からできることをコツコツとしておくことが大切です。

また、災害が起きてしまった時、被災地に救援物資が届くまでに3日かかると言われています。持ち出し品は、この3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

一つの家庭に必要な備蓄品の量は、飲料水は一人一日3リットル。食品(レトルト食品・缶詰など)に加え、最近では食べやすく栄養バランスの良いゼリー飲料も選ばれています。トイレットペーパーや生理用品は必須。



学校における防災

職員室側の2階に物品保管庫があるのはご存知でしょうか？

約2500食の食料(ひじきご飯・きのこのご飯・カロリーメイト)と水が保管されています。

体育館の東には市の備蓄倉庫があります。中には、アルファ米・毛布簡易トイレ・オムツ・使い捨て哺乳瓶・リヤカー・土のう・ウォータータンク・救急セットなど避難所開設時に対応できるような備えています。

校舎の3階と4階には、「オリロー」という緩降機が設置されており、火災の際に備えています。

家族防災会議を開きましょう

- 家族一人ひとりの役割を決める
- 災害時要援護者の支援方法を決めておく。
- 非常持ち出し品の準備とチェック
- 避難場所と避難ルートの確認
- 災害発生時の連絡方法を決めておく



決め事は防災メモとして記録し、家族の目につきやすい位置に保存しましょう!

ご近所でこのようなことはありませんか？

- 新聞や郵便物がたまっている。洗濯物が干しっぱなしになっている。
- 日中でも雨戸が閉まりっぱなし、あるいは夜になってもカーテンが閉まらない。
- 最近元気がない。様子がなんとなくおかしい。
- 最近姿を見かけない。
- 夜なつてもカーテンが閉まらない。
- 庭や家の手入れがされなくなった。
- 日中でも雨戸が締まりっぱなし

あいさつ・声かけなどを通じて、顔の見える関係づくりをすすめましょう。

顔の見える関係を築けたら、日頃から近所の方を気かけましょう。



顔の見える関係づくりから災害時の助け合いへ

PTAでも「顔の見える関係」づくりをすすめ、災害が起きた時でもご近所同士で、スムーズに助け合いができるような地域づくりを目指したいものです。ここで紹介する内容を皆さん一人ひとりが理解し、できることから行動しましょう。私たちの住む地域には、大地震などの災害が発生した時に、自力で避難することが難しい方々が暮らしています。また、災害で怪我を負い、支援が必要になる可能性は誰にでもあります。

災害による被害を減らすには、日頃からの備え(自助)と地域での助け合い(共助)が欠かせません。阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震など、過去の大きな災害では、生き埋めや建物などに閉じ込められた人の大半が自助・共助により助けられました。災害の被害を最小限にするためには、地域の支え合いが重要です。

PTAは地域の重要なコミュニティです。日頃からの地域の関係づくりが大きな防災力となって、いざという時の助け合いにつながります。

